

## 令和6年度宮城県原子力防災訓練（住民避難訓練等）実施結果の概要

### 1 実施概要

原子力災害発生時における関係機関の防災体制や相互連携にかかる実効性を確認するほか、各種計画やマニュアル等に基づく手順を確認するとともに、関係機関やその要員における原子力防災技術の向上や原子力防災に関する住民の理解促進を図ることを目的として、住民避難等訓練、緊急時モニタリング訓練、原子力災害医療活動訓練等を実施した。

【実施日】令和7年2月8日（土）

※原子力災害医療活動訓練の一部は、令和7年2月13日（木）に実施

【主催】宮城県、女川町、石巻市、登米市、東松島市、涌谷町、美里町、南三陸町

【参加機関】42機関（国、自衛隊、警察本部、栗原市、富谷市、大和町、大郷町、大衡村、亶理町、日本赤十字社石巻赤十字病院 等） 約510人

【参加住民数】避難訓練 213人

原子力防災アプリ運用訓練 11, 210人 ※プッシュ通知の送信数

### 2 主な訓練の実施結果

#### （1）住民避難等訓練

バスや自家用車等による住民避難、原子力防災アプリや防災行政無線などによる広報、避難所等の開設・運営を実施した。また、社会福祉施設入所者の一時移転訓練のほか、陸上自衛隊の協力のもと、空路避難訓練や放射線防護対策施設への物資供給訓練を実施した。

なお、海路避難訓練及び海上広報訓練は、悪天候により中止した。

#### <結果・課題>

- ・ 住民避難訓練を通じて、原子力災害時の避難経路のほか、避難所等の設営に係る手順を確認できた。特に富谷市及び黒川郡3町村は、避難先地域として初めて訓練に参加し、避難住民受入れの手順を確認できた。
- ・ 女川町の出島大橋開通に伴い、出島島民の陸路での避難経路を確認できた。
- ・ 県と宮城県タクシー協会が締結する災害協定に基づき、タクシー事業者の福祉タクシーによる福祉施設入所者の搬送訓練を初めて実施できた。
- ・ 令和6年能登半島地震を踏まえて、半島部に孤立地域が発生した想定の下、陸上自衛隊のヘリコプターによる物資供給訓練を実施できた。
- ・ 避難所設営訓練を実施していない市町もあることから、引き続き、県内市町村と連携して訓練を実施する。



ヘリコプターに乗り込む住民  
（女川町江島）



アプリによる避難所受付  
（富谷武道館）

## (2) 緊急時モニタリング訓練

原子力規制庁と連携して、ドローンによる空間放射線量率の測定を実施した。

### <結果・課題>

- ・ 電子式線量計を積載したマルチコプターによる空間放射線量率の測定及び無人ヘリコプターによる面的な空間放射線量率の測定を実施し、モニタリングポスト欠測時の代替測定手法を確認できた。
- ・ 引き続き、原子力規制庁との情報共有を密にして、迅速なモニタリング実施に資する。



測定機器を搭載したドローン  
(渡波漁港)



モニタリングポストの代替測定  
(渡波漁港)

## (3) 原子力災害医療活動訓練

2か所の避難退域時検査場所を開設・運営し、車両及び住民の放射性物質の付着状況検査、安定ヨウ素剤の緊急配布、検査場所内での救急車への汚染傷病者引渡し・搬送訓練を実施した。

また、女川原子力発電所で汚染傷病者2名が発生したとの想定の下、複数の原子力災害拠点病院と連携し、汚染傷病者の受入・処置及び転院搬送訓練を実施した(2月13日実施分)。

### <結果・課題>

- ・ 避難退域時検査訓練を通じて、レイアウトを確認するとともに、当該要員の技術習熟を図ることができた。
- ・ 石巻赤十字病院の原子力災害医療棟での汚染傷病者受入、処置訓練を初めて実施したほか、仙台医療センターにおける内部被ばく検査、東北大学病院への転院搬送訓練を実施し、その手順を確認できた。
- ・ 改善工事を実施した避難退域時検査場所について、訓練を通じてレイアウト案を検証する。



ゲート型モニタによる汚染検査  
(南郷体育館)



汚染傷病者の搬送  
(南郷体育館)



汚染傷病者への処置  
(石巻赤十字病院)



汚染傷病者の内部被ばく検査  
(仙台医療センター)

## 3 今後の対応等

孤立地域へのヘリコプターによる物資供給など令和6年能登半島地震を踏まえた訓練のほか、福祉施設入所者の搬送など初めて実施する訓練を通じて、女川地域における原子力防災体制の具体化を図ることができた。引き続き、今回訓練に参加された住民や参加機関からの意見、訓練評価結果等を踏まえて、県内市町村と連携して訓練を実施し、原子力防災体制の充実・強化を図っていく。